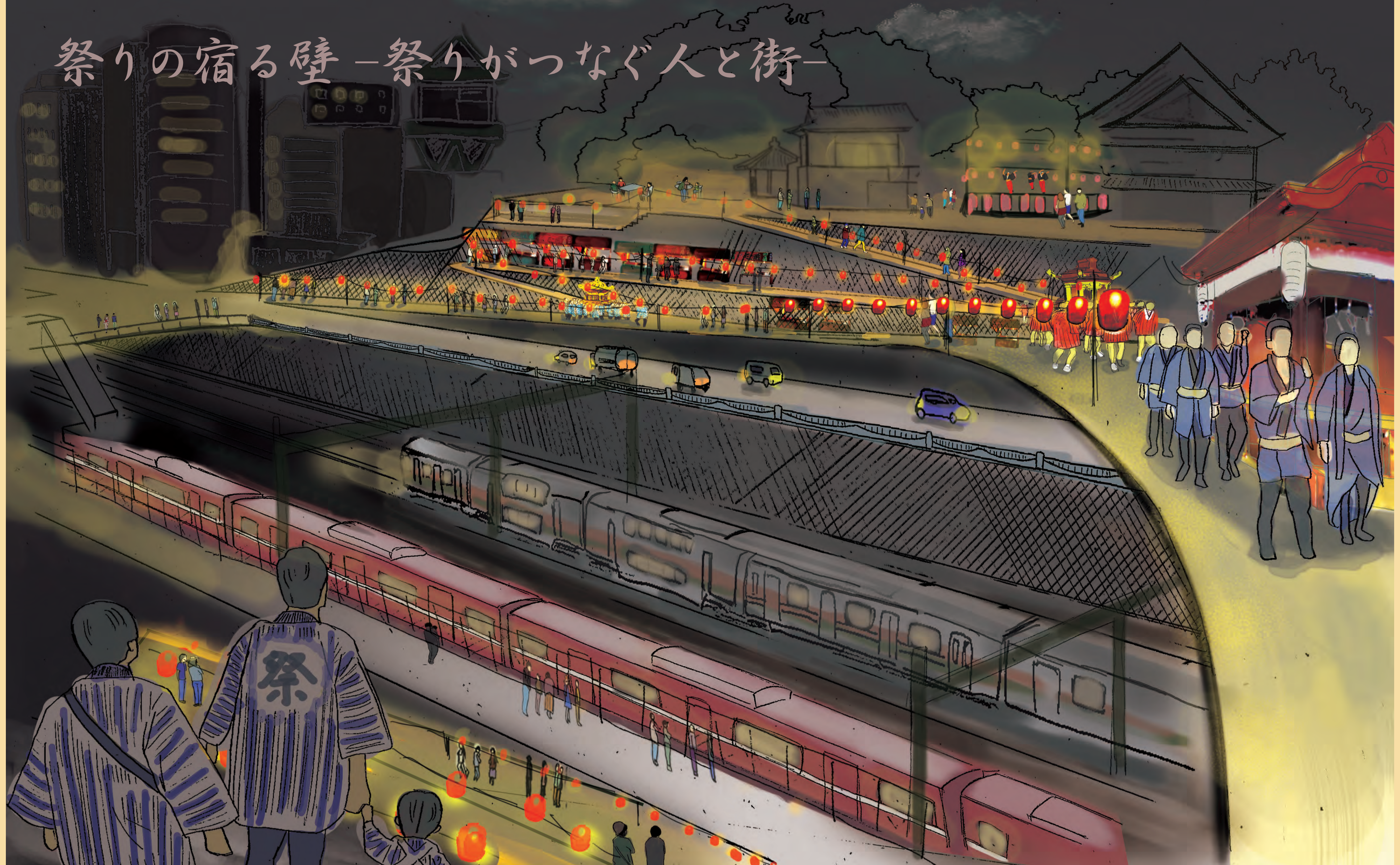


# 祭りの宿る壁 - 祭りがつなぐ人と街 -



## 背景 - 祭りと日常

祭り。それは、世代を超えて人々を惹きつける日本の伝統である。現在日本には30万を超える祭りがあり、祭りになると、普段は静かな街も一瞬で活気あふれる街へと姿を変える。そんな姿に我々は魅せられる。しかし、祭りの活気は利他的であり、その熱気は普段は内在化してしまう。そのくすぶり続けているであろう熱気を、日常に繋げることはできないだろうか。

## 対象地

### ■平凡な郊外住宅地



元々、この地は1つの山の尾根であったが、鉄道の開通に伴い、2つの地区に分けられた。その結果、集積していた歴史的遺産は分断され、地域の個性が弱まった。そして、横浜駅へと人を流すだけの住宅街へとなってしまうのである。

## ■活力が出出す日「ちょうちん祭り」



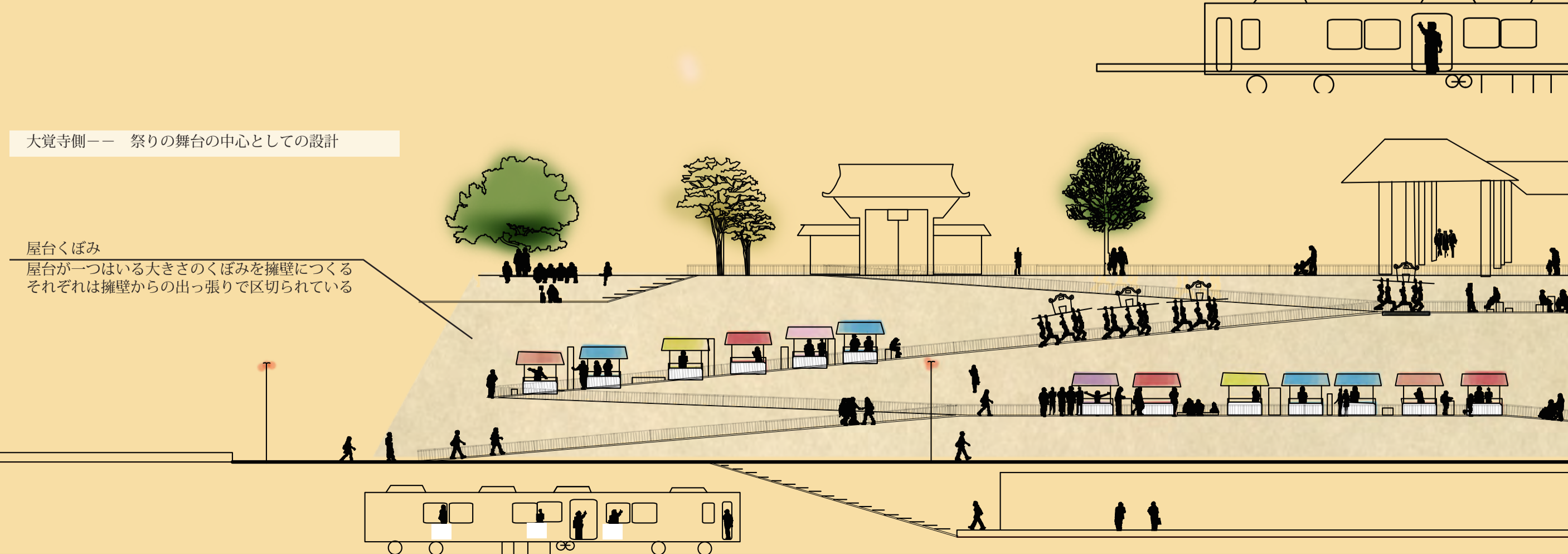
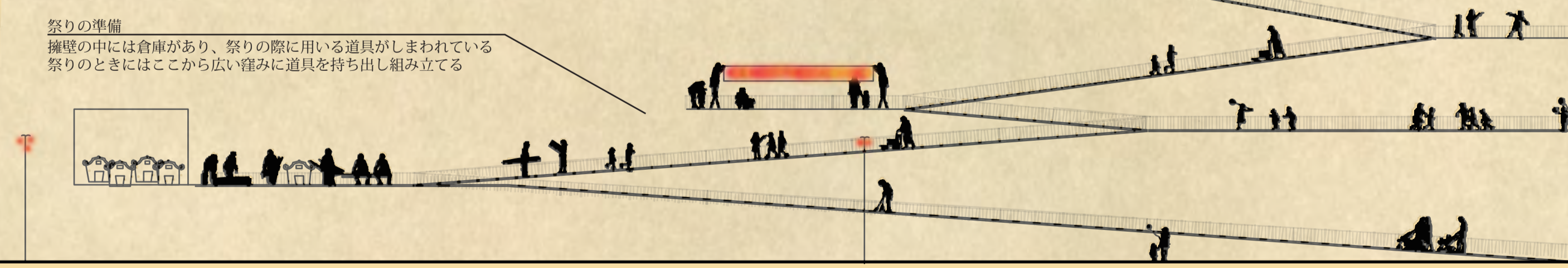
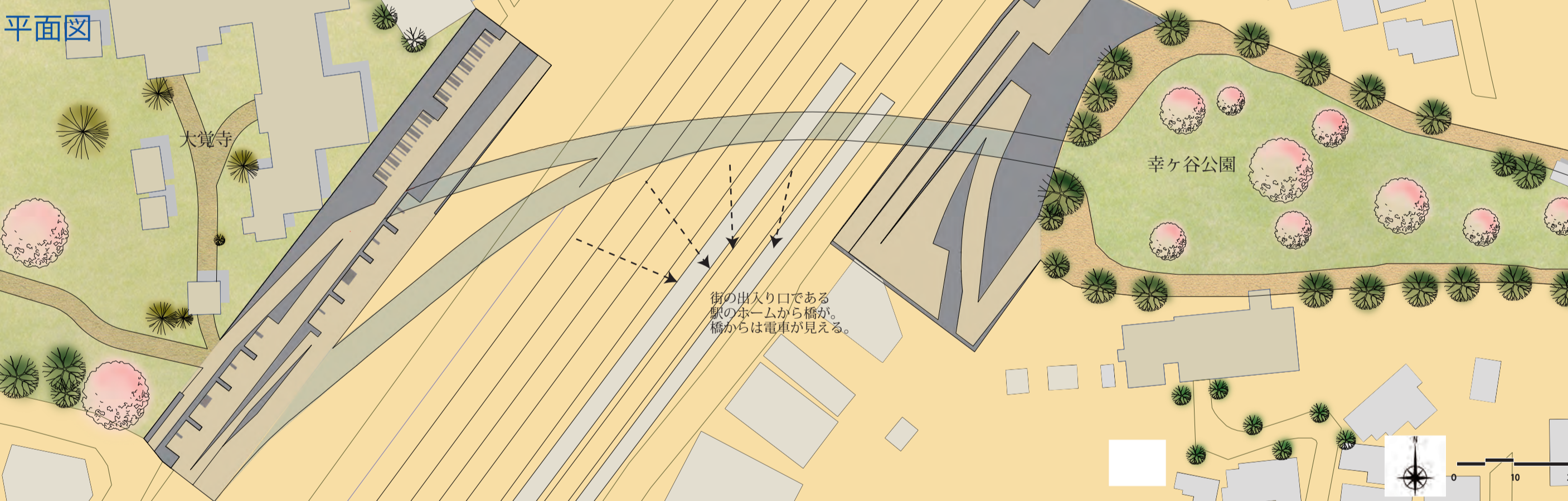
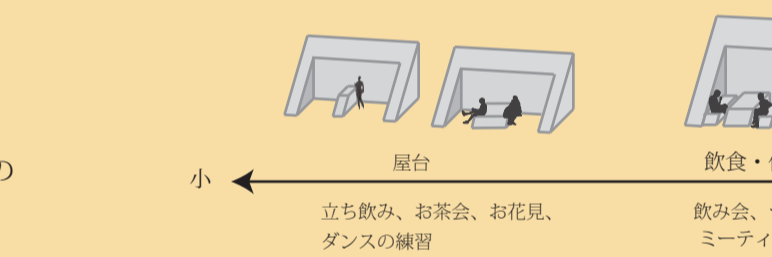
分断されたかのように見えるこの地も、年に一度の祭では賑わいを見せる。それが6月初旬に三日間に渡って行われる通称提灯祭である。この祭は、二つの町が共同で行っており、古くからの街の賑がりの唯一の名残である。しかし、この祭りも賑わいが見られるのは、祭りの日だけであり、その地域の活力が日常でも見られることはない。

## コンセプト - 祭りを街の力に

Point1 2つの街の境界である「擁壁」を祭りの舞台とする

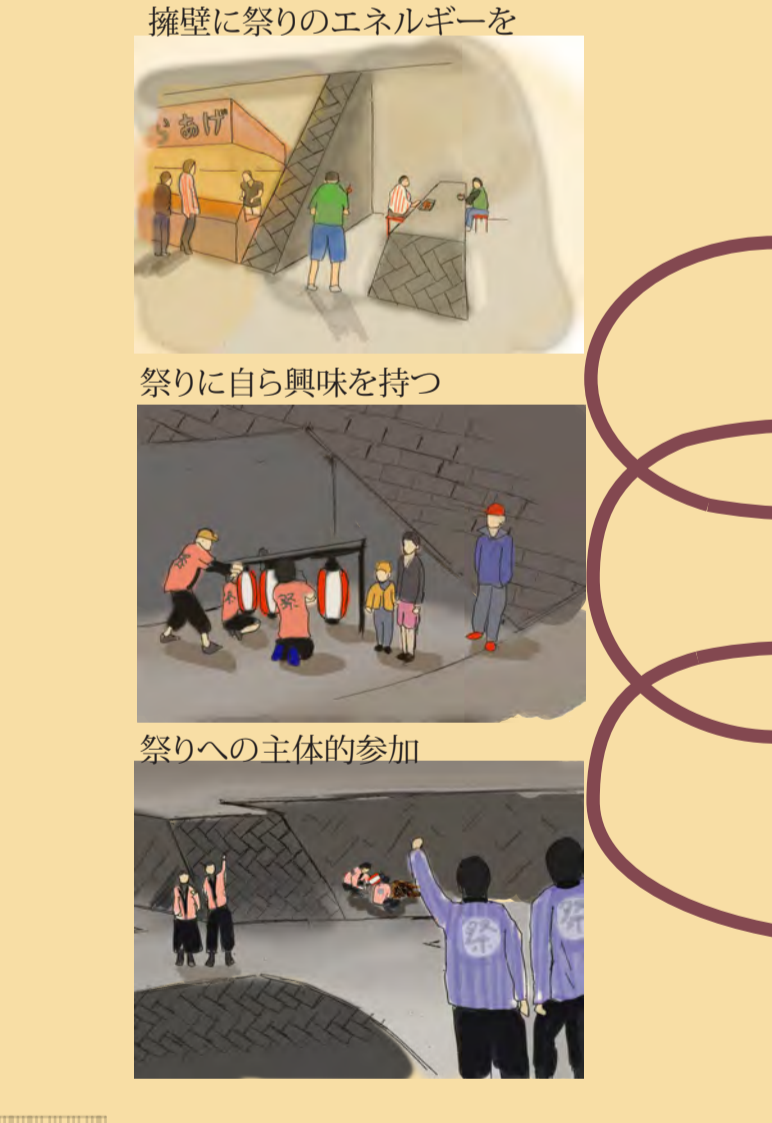


Point2 祭りのための空間が日常の様々な行動も抱擁する



## プロセス - 祭りと日常の相互作用

祭りや日常の作用が循環し、地域にもエネルギーを与える。



大きな確み  
こちら側の確みは祭りを眺める視点場、普段は公園の延長として子供たちの遊び場となるように広く設計されている。祭りの際はステージとして使うことも可能。

見える祭り  
祭りは神奈川駅のホームや京急・JRの電車の中から見える擁壁で開かれ、外に向かってまちの賑わいを表出させる。

大小のつぼり  
祭りの時の休憩スペース、飲食スペースとして活用される。出っ張りの大きさは一定ではなく、ランダムに配置される。

緩やかにのぼるスロープ  
擁壁はゆるやかなスロープでつながら、バリアフリーに設計する。